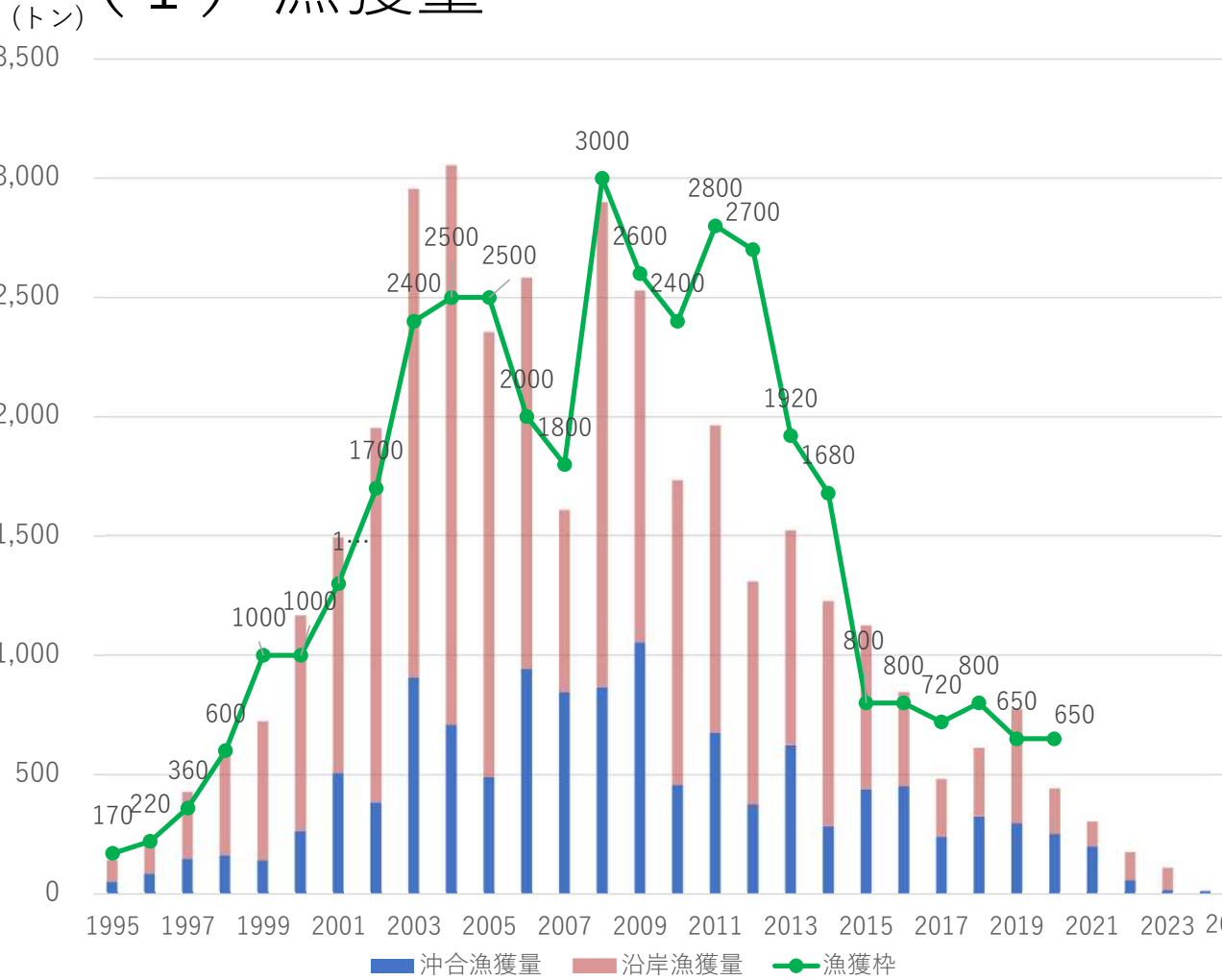


令和 6 年漁期の 秋田県ハタハタ漁獲状況について

令和 7 年 4 月 22 日
秋田県水産振興センター

1. 漁獲状況

(1) 漁獲量



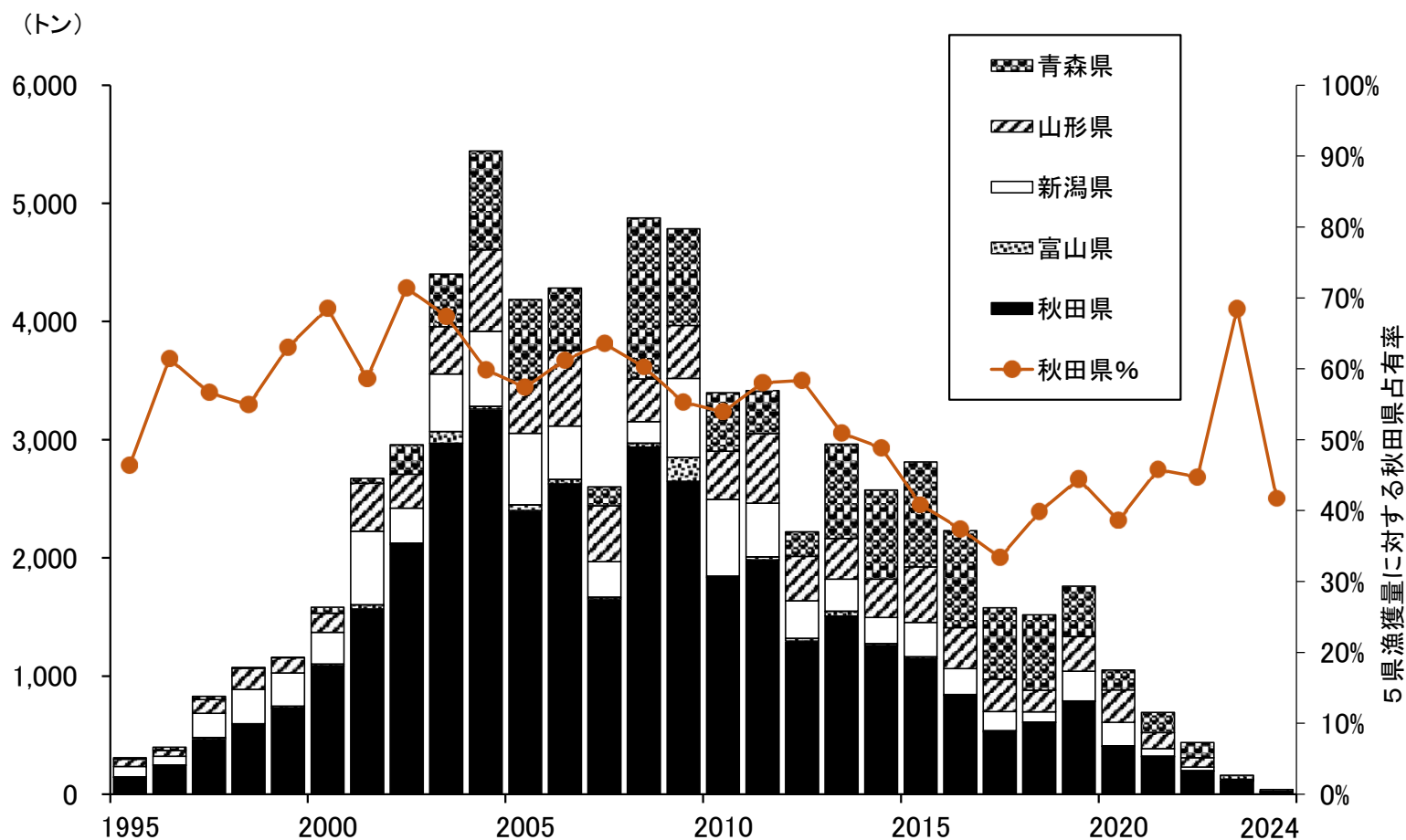
○今期は沖合15トン、沿岸2トンの合計17トン（3月末現在）

漁期	管理期間	沖合(トン)			沿岸(トン)			計(トン)		
		漁獲枠	漁獲量	実績(%)	漁獲枠	漁獲量	実績(%)	漁獲枠	漁獲量	実績(%)
平成	7年	85	53	62	85	90	106	170	143	84
	8年	110	86	78	110	158	144	220	244	111
	9年	180	148	82	180	280	155	360	428	119
	10年	300	162	54	300	438	146	600	599	100
	11年	400	142	36	600	580	97	1,000	722	72
	12年	400	265	66	600	902	150	1,000	1,166	117
	13年	520	506	97	780	986	126	1,300	1,493	115
	14年	680	384	56	1,020	1,570	154	1,700	1,954	115
	15年	960	906	94	1,440	2,051	142	2,400	2,957	123
	16年	1,000	707	71	1,500	2,349	157	2,500	3,055	122
	17年	1,000	489	49	1,500	1,867	124	2,500	2,356	94
	18年	800	943	118	1,200	1,640	137	2,000	2,584	129
	19年	720	845	117	1,080	765	71	1,800	1,610	89
	20年	1,200	866	72	1,800	2,035	113	3,000	2,901	97
	21年	1,040	1,054	101	1,560	1,475	95	2,600	2,530	97
	22年	960	457	48	1,440	1,277	89	2,400	1,734	72
	23年	1,120	677	60	1,680	1,287	77	2,800	1,964	70
	24年	1,080	376	35	1,620	931	57	2,700	1,307	48
	25年	768	624	81	1,152	898	78	1,920	1,522	79
	26年	672	285	42	1,008	940	93	1,680	1,225	73
	27年	320	438	137	480	686	143	800	1,124	141
	28年	320	450	141	480	395	82	800	845	106
	29年	290	241	83	430	240	56	720	481	67
	30年	320	325	102	480	287	60	800	612	77
令和	元年	325	296	91	325	479	147	650	775	119
	2年	325	252	78	325	191	59	650	443	68
	3年	-	199	-	-	105	-	-	304	-
	4年	-	59	-	-	117	-	-	176	-
	5年	-	18	-	-	93	-	-	111	-
	6年	-	15	-	-	2	-	-	17	-

※令和7年3月末現在

(2) 日本海北部5県における漁獲量

○令和6年(2024)1~12月の合計漁獲量<速報値>は、40トン(前年161トン)から121トン減少



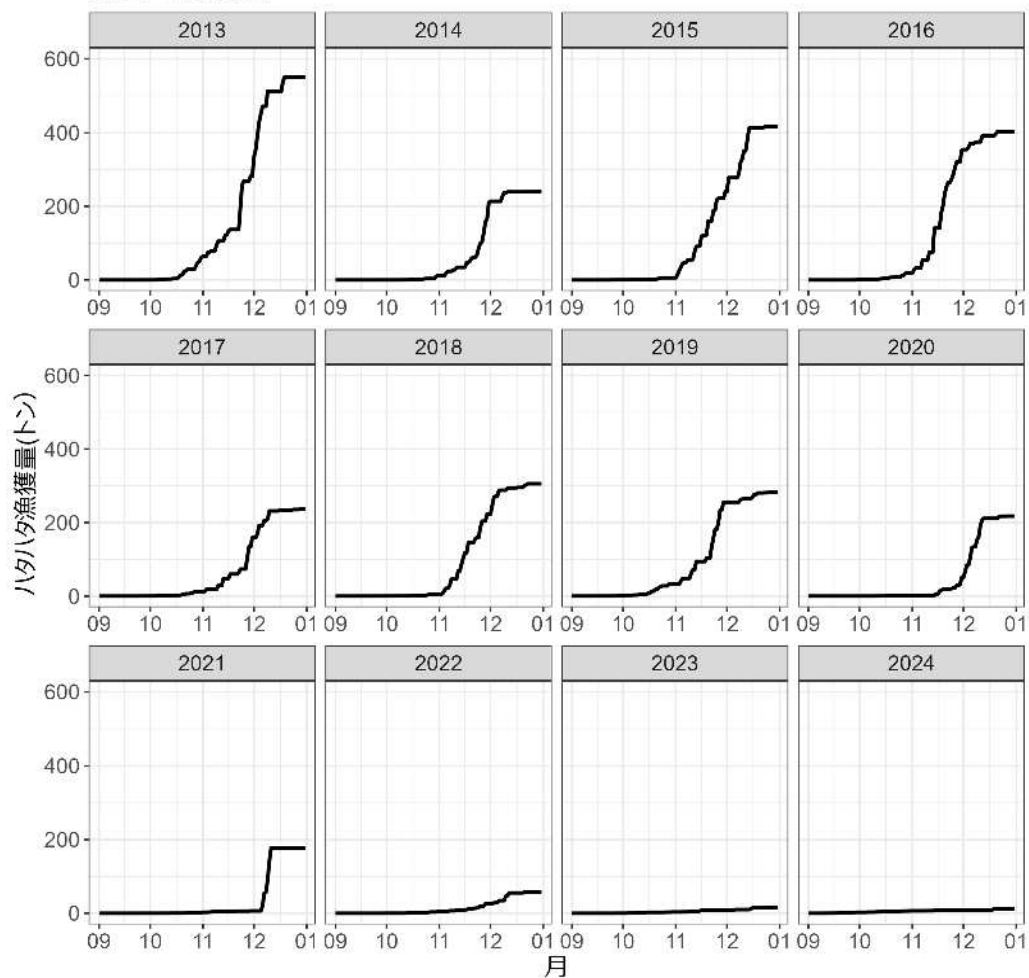
県別年間漁獲量

青森県 16トン (35トン)
秋田県 17トン (110トン)
山形県 4トン (4トン)
新潟県 3トン (8トン)
富山県 0.3トン (4トン)
() 内は前年漁獲量

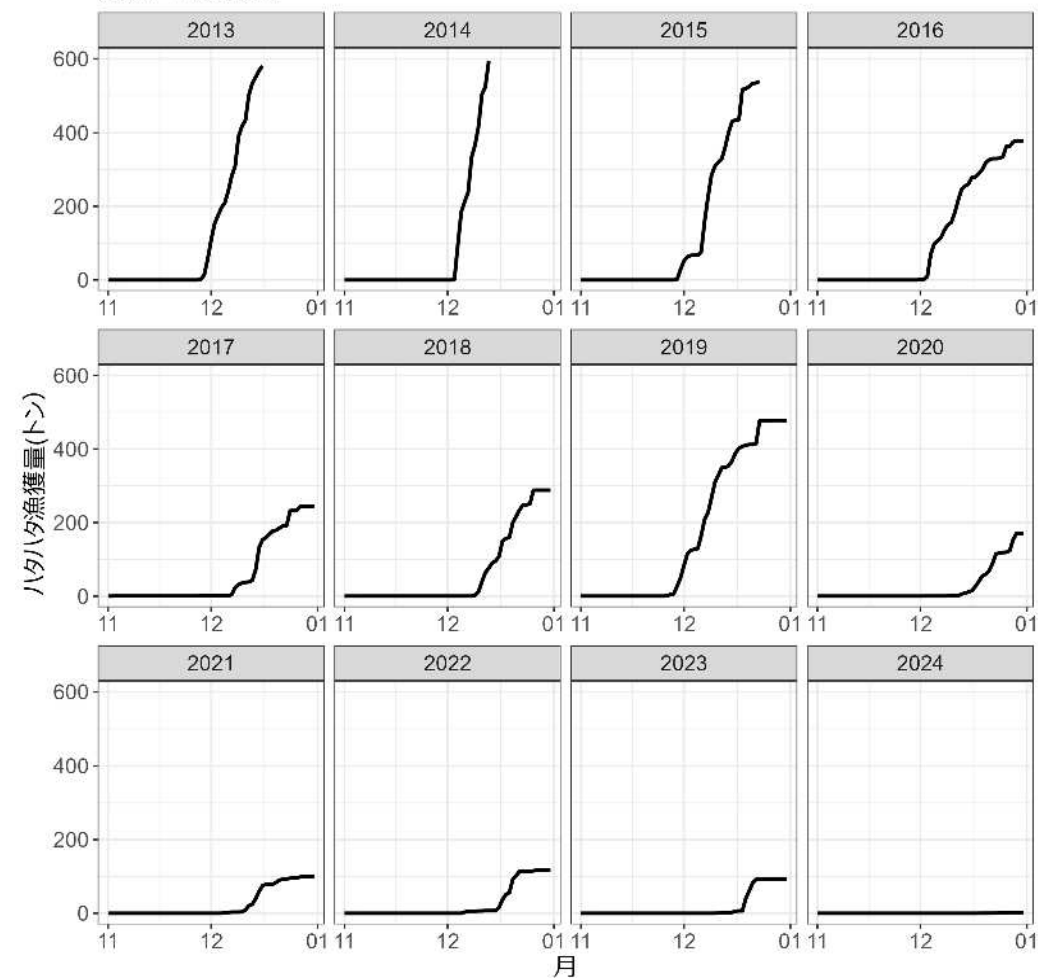
令和4年までは、農林水産統計の値
令和5、6年は、各県聞き取りの暫定値

(3) 日別累計漁獲量①沖合と沿岸

沖合年別推移



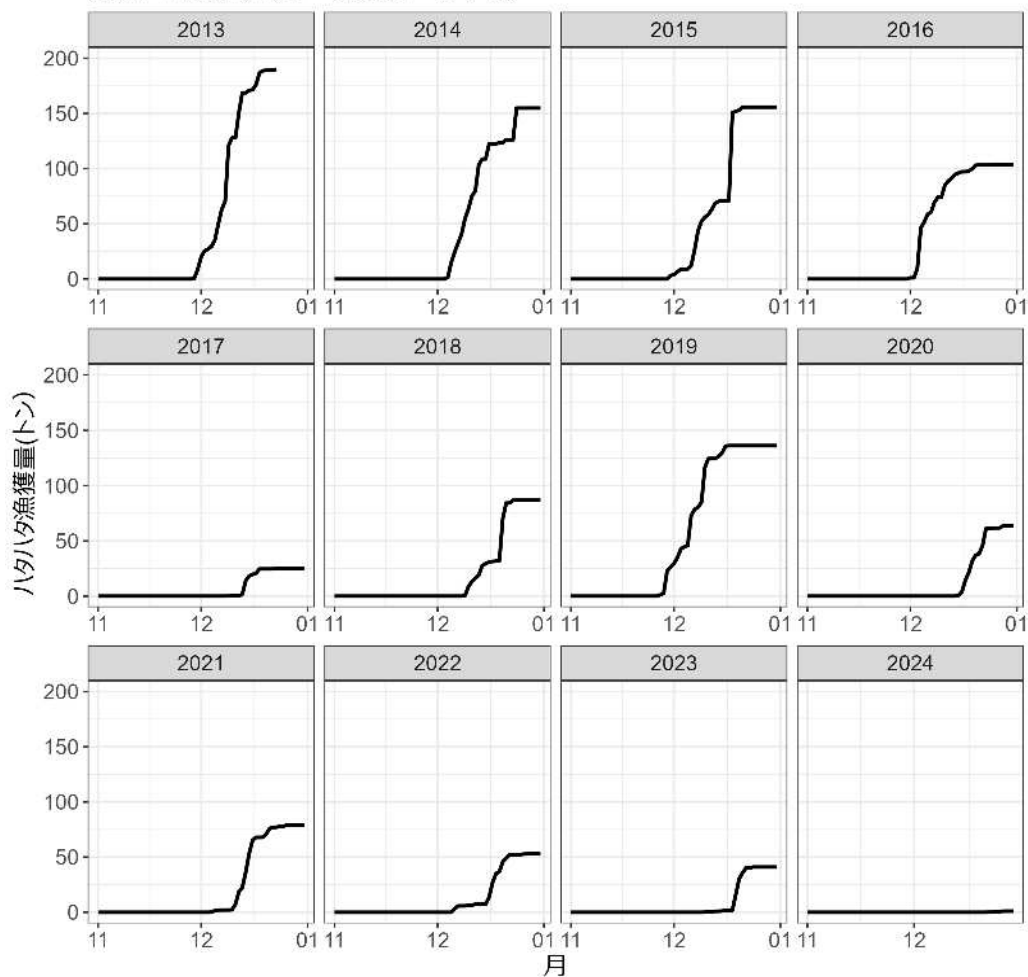
沿岸年別推移



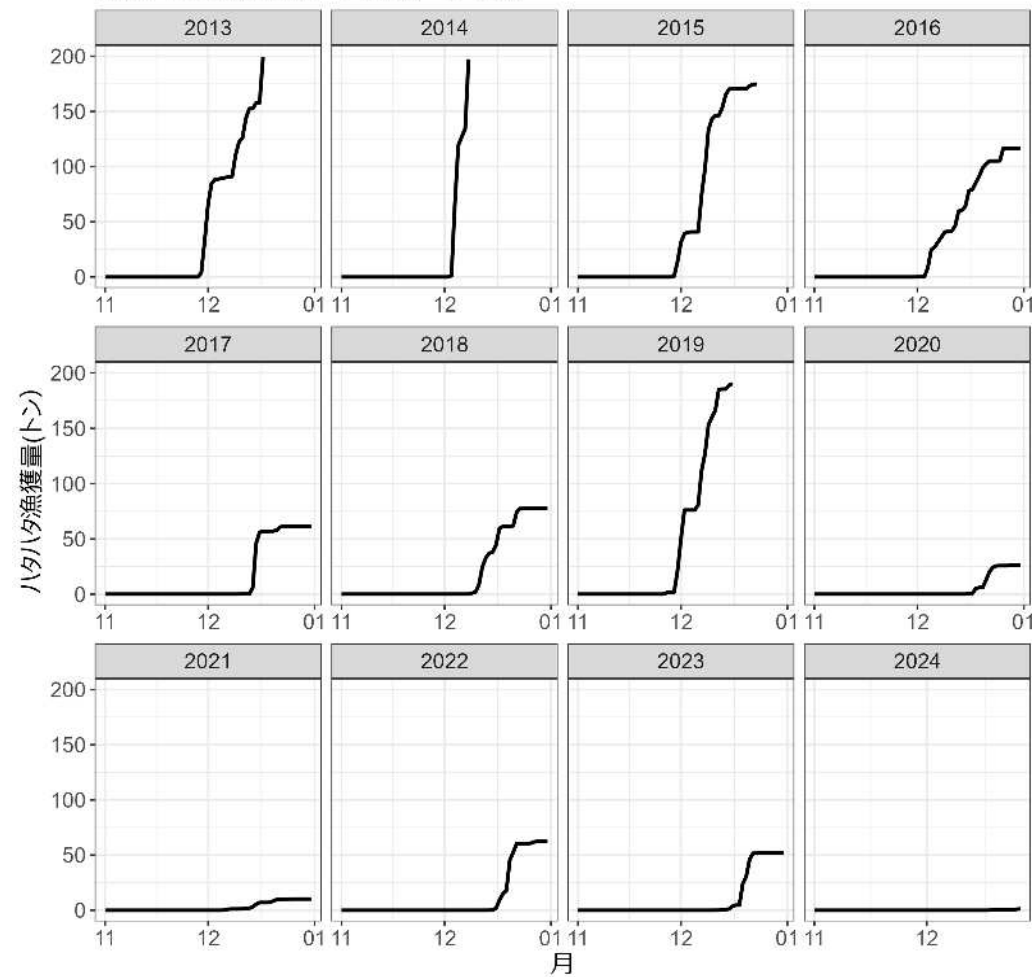
○沖合、沿岸ともに例年のような漁獲が集中する時期が見られていない

(3) 日別累計漁獲量②沿岸北部

沿岸年別県北部（岩館—八竜）



沿岸年別男鹿北（若美—戸賀）

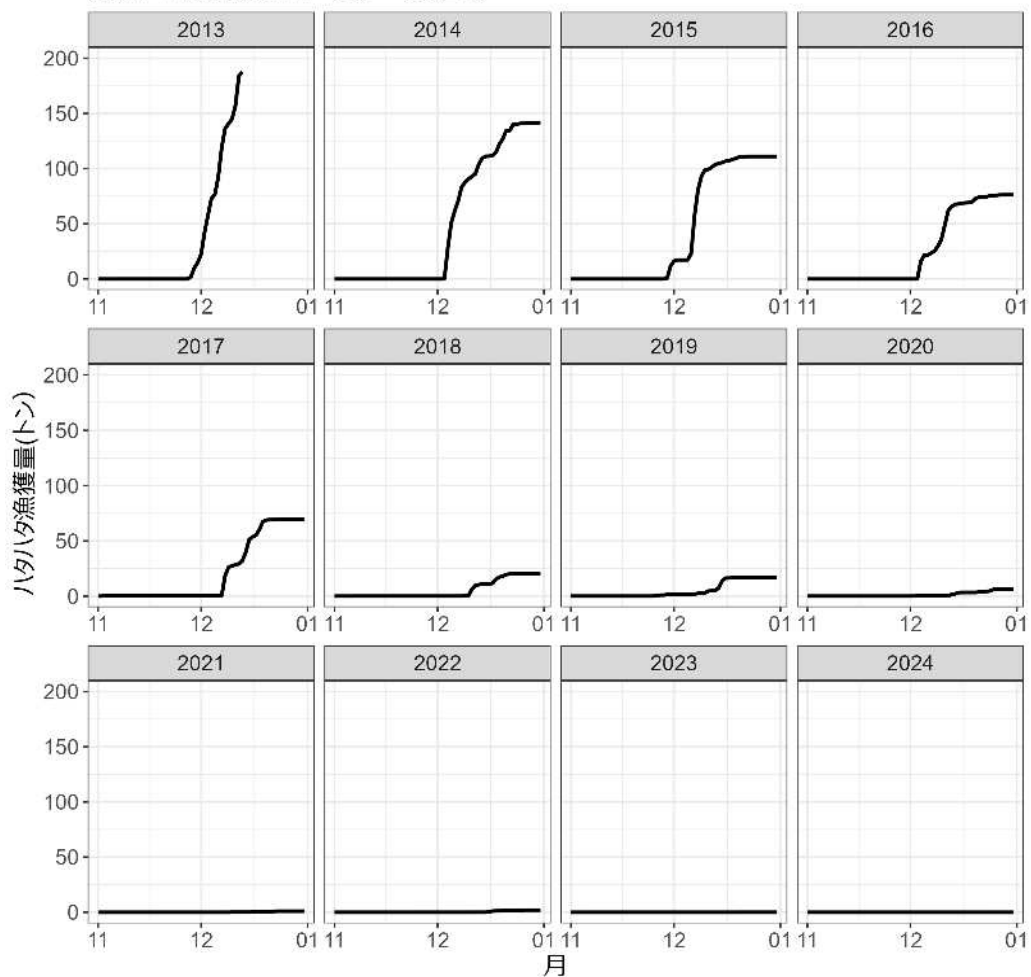


○沿岸での初水揚げ（季節ハタハタ初漁日）は、12月15日男鹿市北浦（漁獲されたのは12月14日）

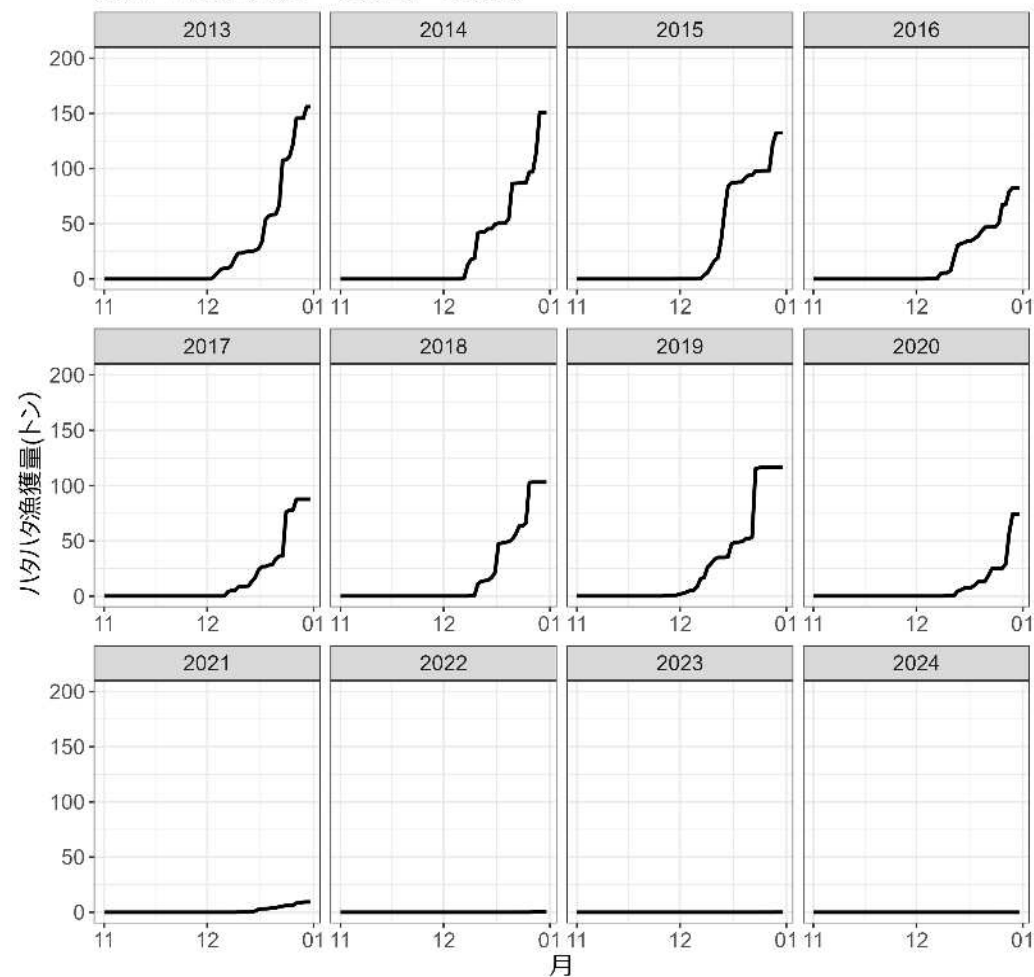
○例年のような漁獲が集中する時期が見られなかった。

(3) 日別累計漁獲量③沿岸南部

沿岸年別男鹿南（椿－天王）



沿岸年別県南部（秋田—象潟）



○県南部では、漁獲がほぼない状況

○県南部においては過去4年間、まとまった漁獲がない。

(4) 操業日数

○令和6年漁期に操業して水揚げ実績があったのは、岩館、八森、北浦、船川、平沢、象潟のみ

○船川、平沢、象潟については水揚げはあっても0.8～3kg程度

○沿岸全地区と沖合で水揚げがほとんどない状況

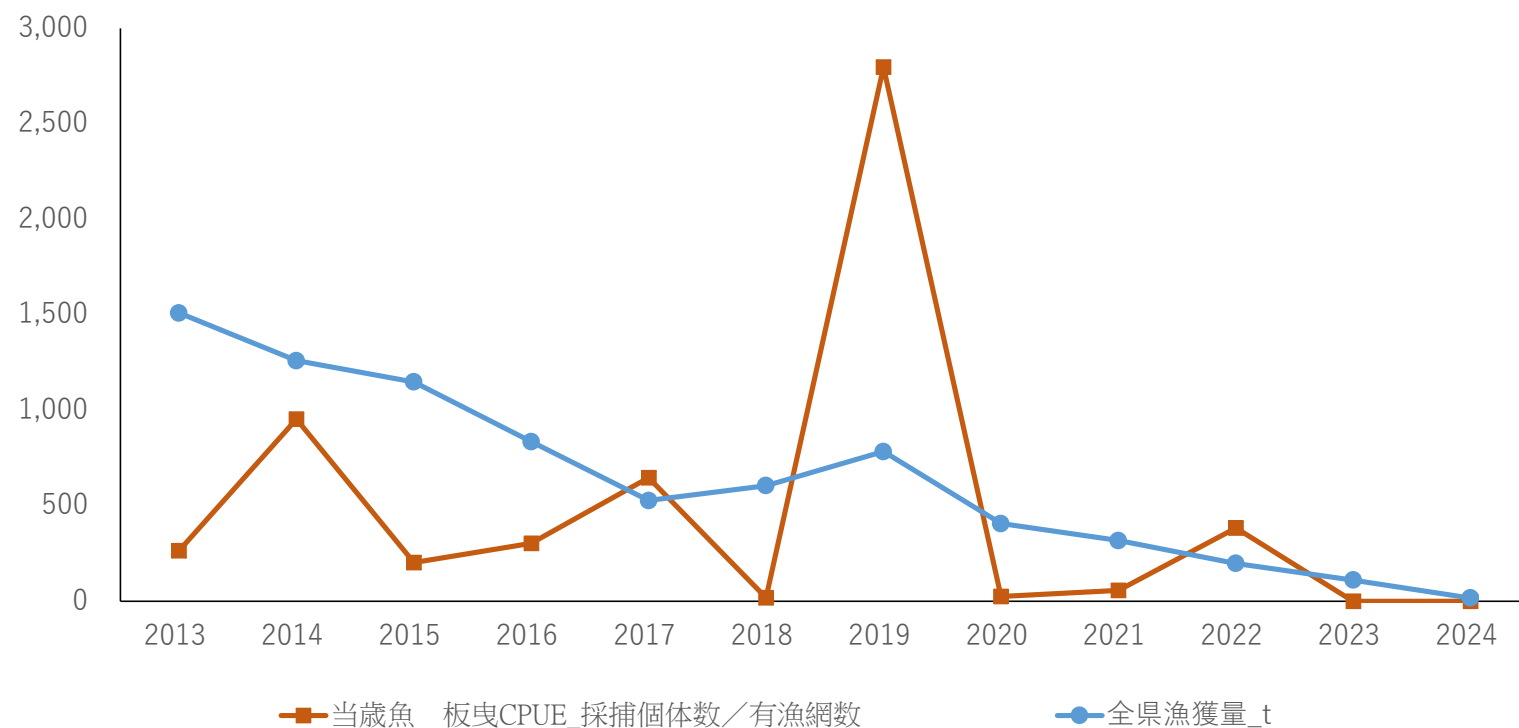
漁法	地区	経営体数							経営体ごとの水揚げ日数						
		上限	実績		実績	実績/上限	実績/上限	実績/上限	上限	実績	実績	実績	実績/上限	実績/上限	実績/上限
			2022	2023	2024	2022	2023	2024		2022	2023	2024	2022	2023	2024
刺し網	岩館	8	8	8	6	100%	100%	75%	12	7	5	4	55%	42%	33%
	八森	14	14	13	10	100%	93%	71%	12	7	8	4	58%	67%	33%
	道川	12	0	1	0	0%	8%	0%	15	0	1	0	0%	7%	0%
	西目	10	3	3	0	30%	30%	0%	15	1	3	0	7%	20%	0%
定置網	岩館	4	3	3	1	75%	75%	25%	12	8	7	3	64%	58%	25%
	八森	5	4	3	0	80%	60%	0%	12	5	3	0	44%	25%	0%
	能代	1	1	1	0	100%	100%	0%	12	2	4	0	17%	33%	0%
	若美	2	2	1	0	100%	50%	0%	12	1	2	0	8%	17%	0%
	五里合	6	4	1	0	67%	17%	0%	12	1	4	0	8%	33%	0%
	北浦	8	6	6	7	75%	75%	88%	15	8	9	2	53%	60%	13%
	船川	30	15	5	1	50%	17%	3%	15	3	2	1	23%	13%	7%
	脇本	6	4	0	0	67%	0%	0%	12	2	0	0	17%	0%	0%
	天王	5	0	0	0	0%	0%	0%	12	0	0	0	0%	0%	0%
	道川	1	0	0	0	0%	0%	0%	17	0	0	0	0%	0%	0%
	平沢	1	1	0	1	100%	0%	100%	15	1	0	1	7%	0%	7%
	金浦	1	1	0	0	100%	0%	0%	17	2	0	0	12%	0%	0%
	象潟	2	2	0	1	100%	0%	50%	15	3	0	1	17%	0%	7%
底びき網	全県	17	18	17	17	106%	100%	100%	22	7	3	2	32%	14%	9%

・底びき網の経営体ごとの水揚げ日数は、90kg以上を1日とカウント。
 ・底びき網の経営体数上限は2024年漁期から17とした。以前は18のため2022年は100%を超えている。

2. 調査結果

(1) 仔稚魚（0歳）

サンプル採取
千秋丸板びき網
当歳魚（0歳魚）の漁獲調査



○2024年の調査では、2023年に引き続き仔稚魚（0歳魚）の採捕はなし。
○2025年の調査も現在実施中だが、仔稚魚の採捕はない。

(2) 漁獲物の体長組成

○サンプル採取

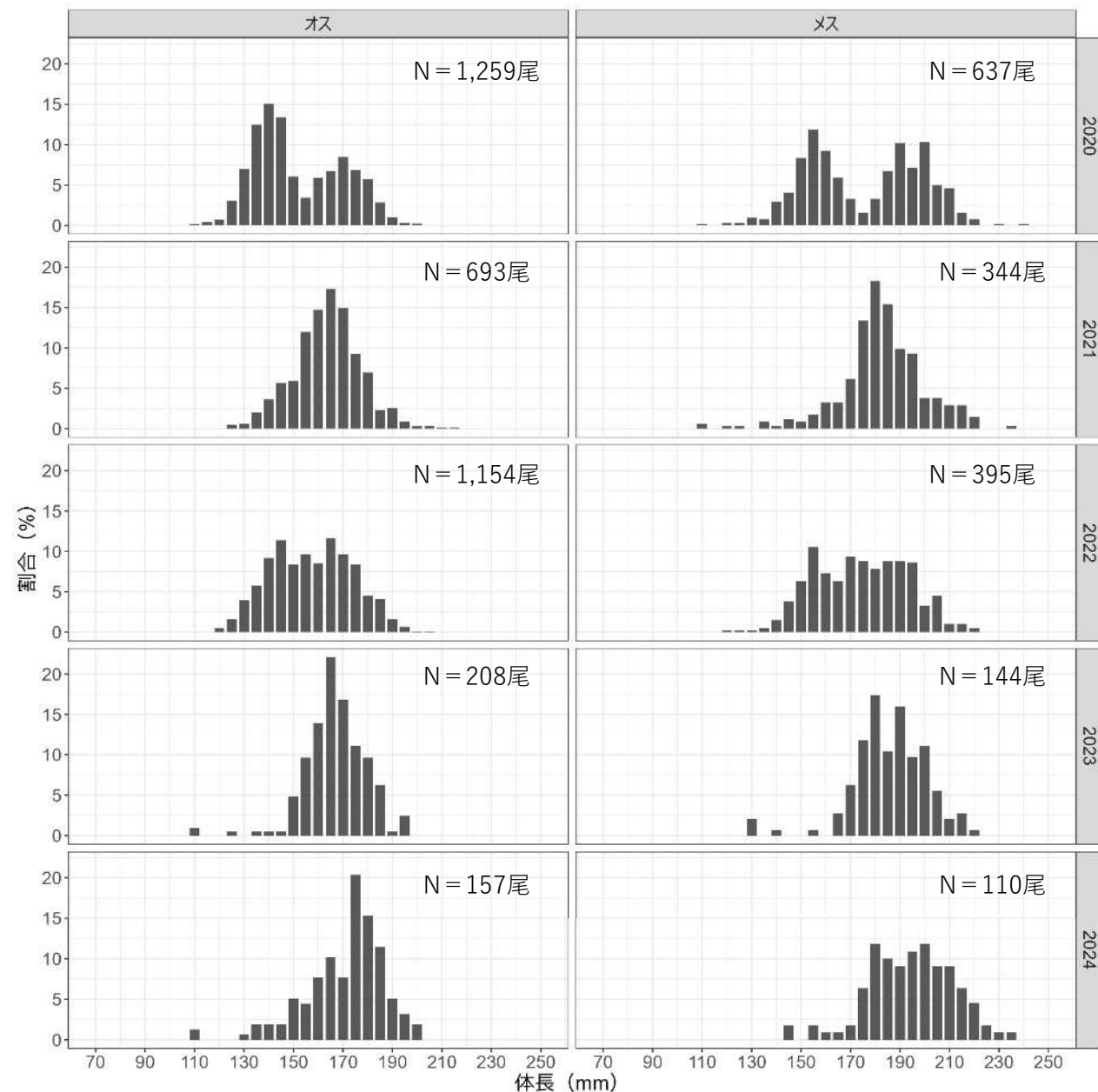
9～12月

千秋丸（男鹿一由利本荘市沖）

かけ廻し

○体長組成から年齢構成は3歳が最も多い

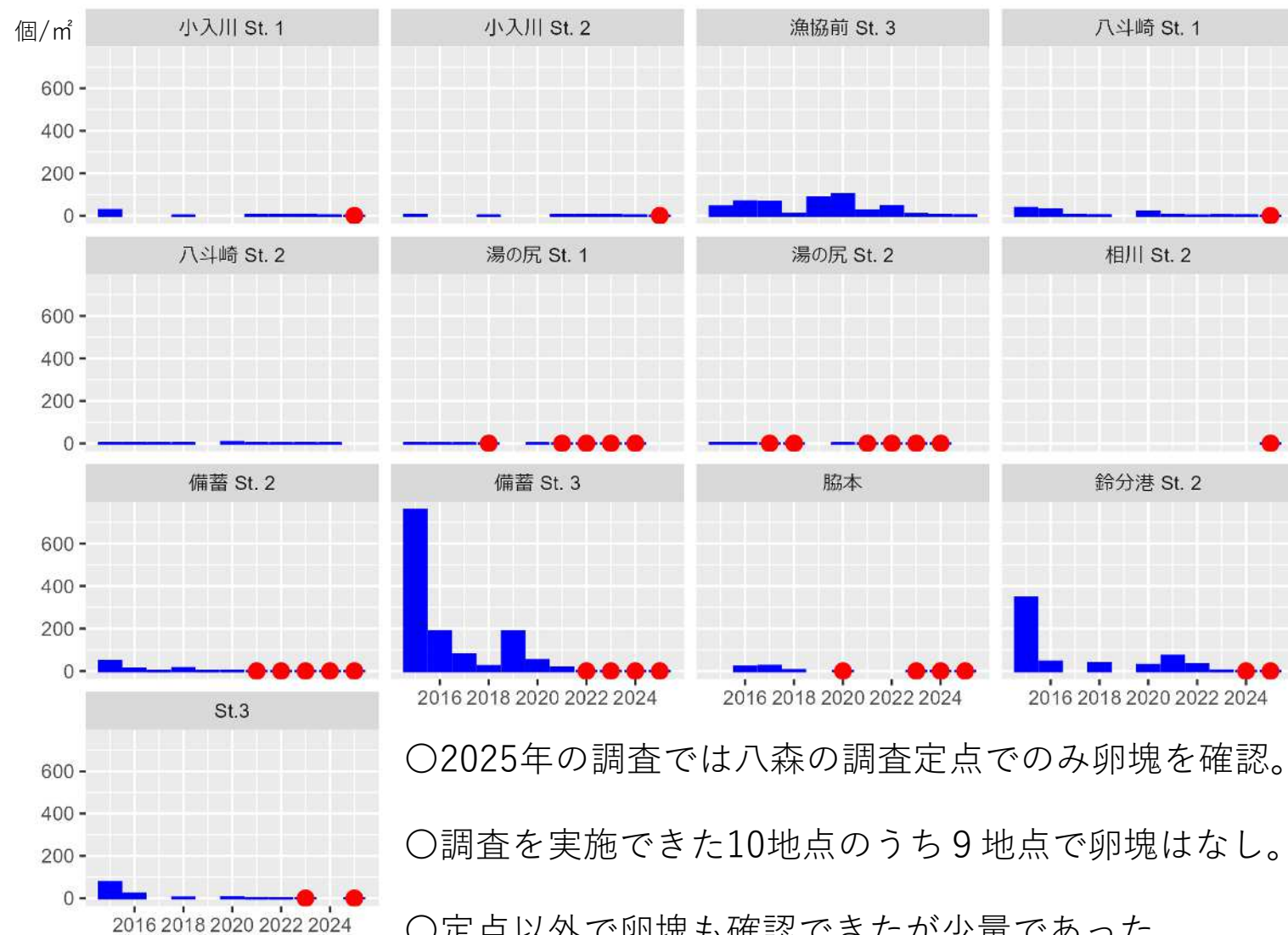
○1，2歳魚が少ない



【参考】9～12月頃の年齢ごとの体長の目安 (cm)

	1歳	2歳	3歳	4歳
オス	14.0	16.0	18.0	20.0
メス	15.5	18.0	20.5	23.0

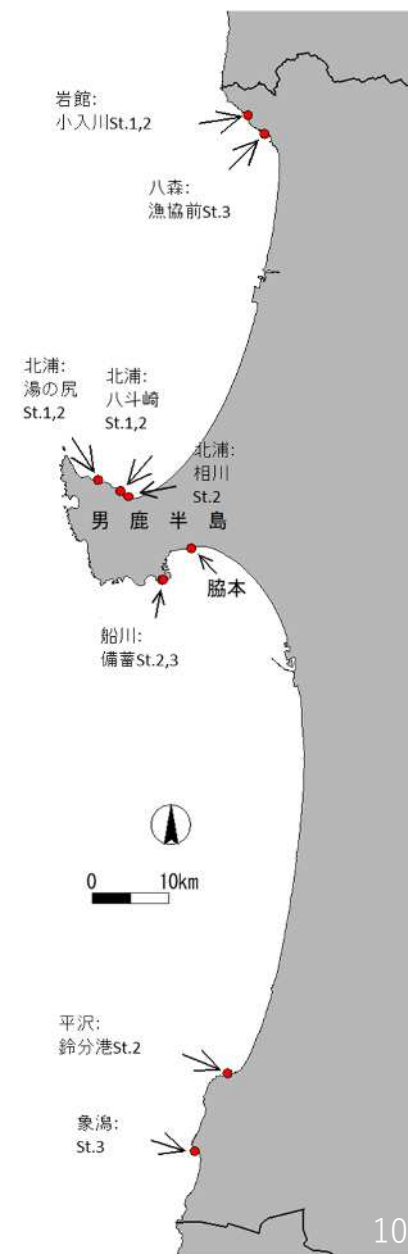
(3) 産卵状況① (卵塊密度) ※空白は荒天のため欠測、赤●は0



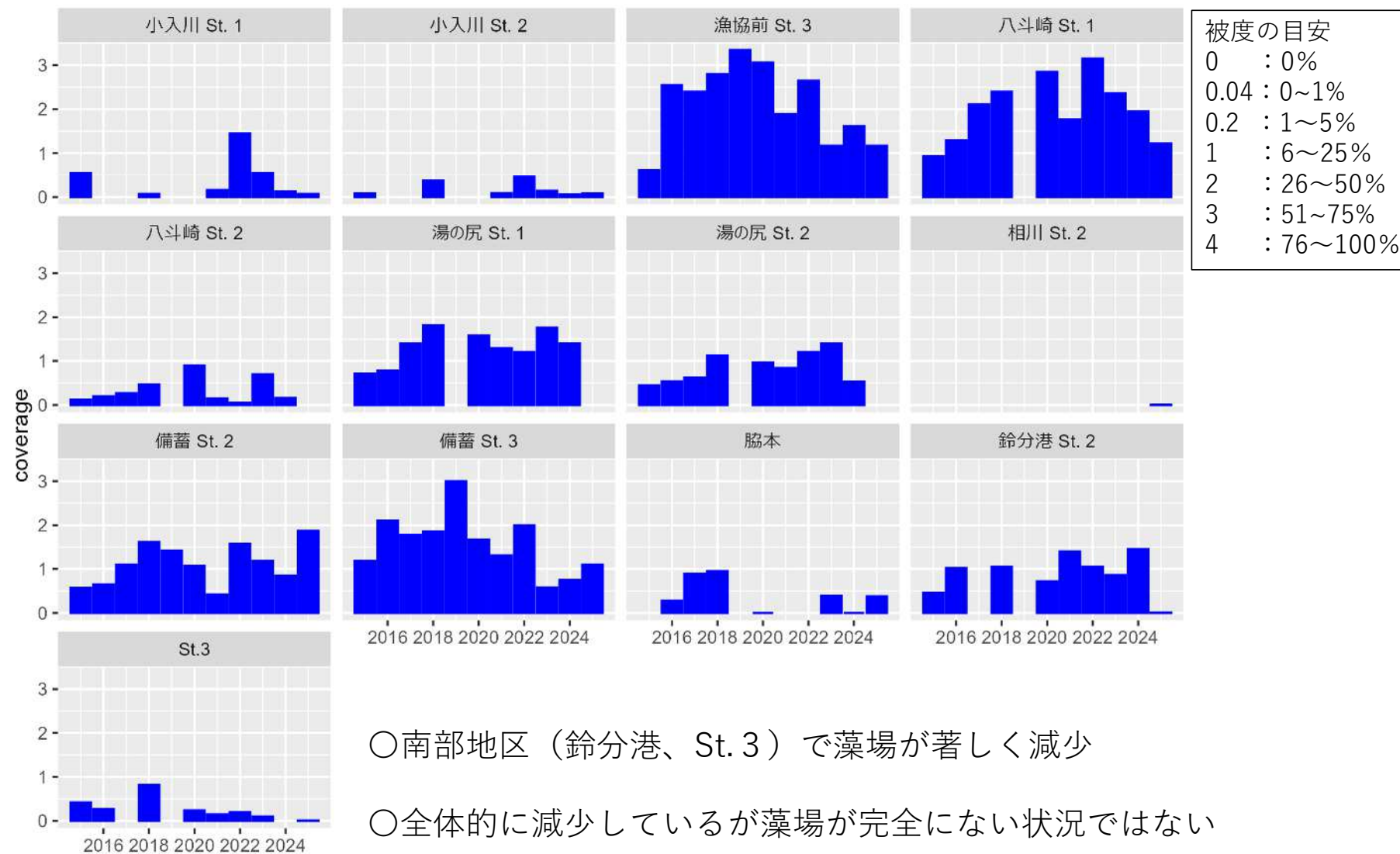
○2025年の調査では八森の調査定点でのみ卵塊を確認。

○調査を実施できた10地点のうち9地点で卵塊はなし。

○定点以外で卵塊も確認できたが少量であった。

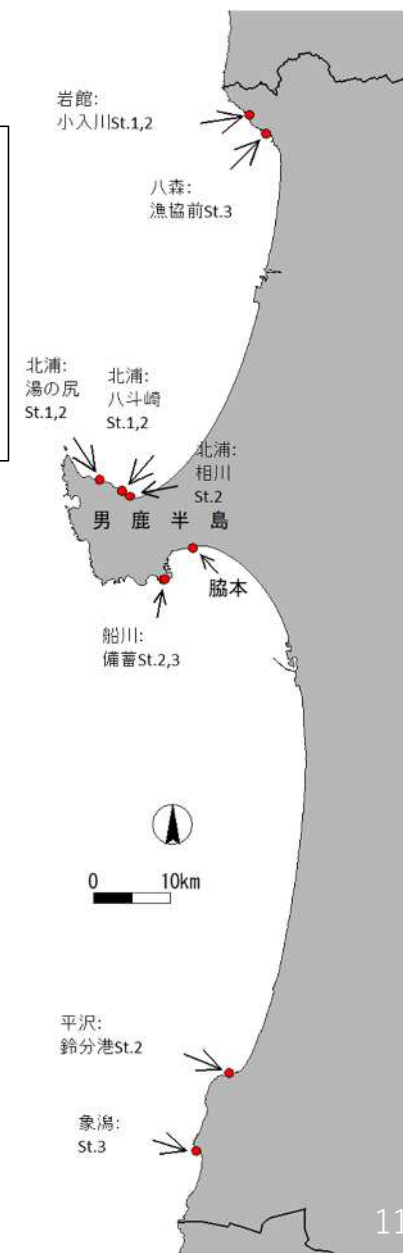


(3) 産卵状況② (ホンダワラ類被度) ※空白は荒天のため欠測



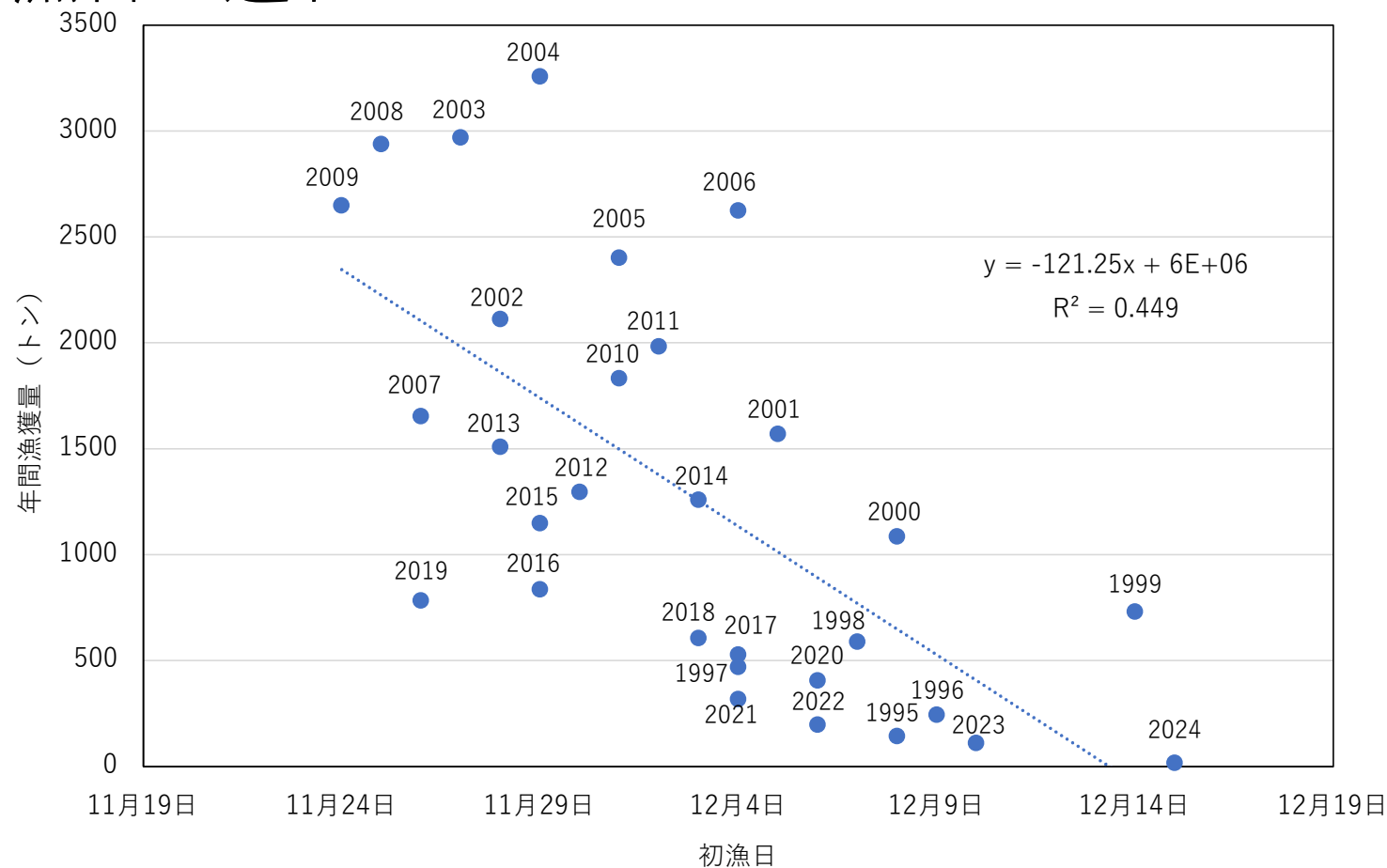
○南部地区（鈴分港、St. 3）で藻場が著しく減少

○全体的に減少しているが藻場が完全にはない状況ではない



3. 漁獲量低迷要因の考察

(1) 初漁日の遅れ



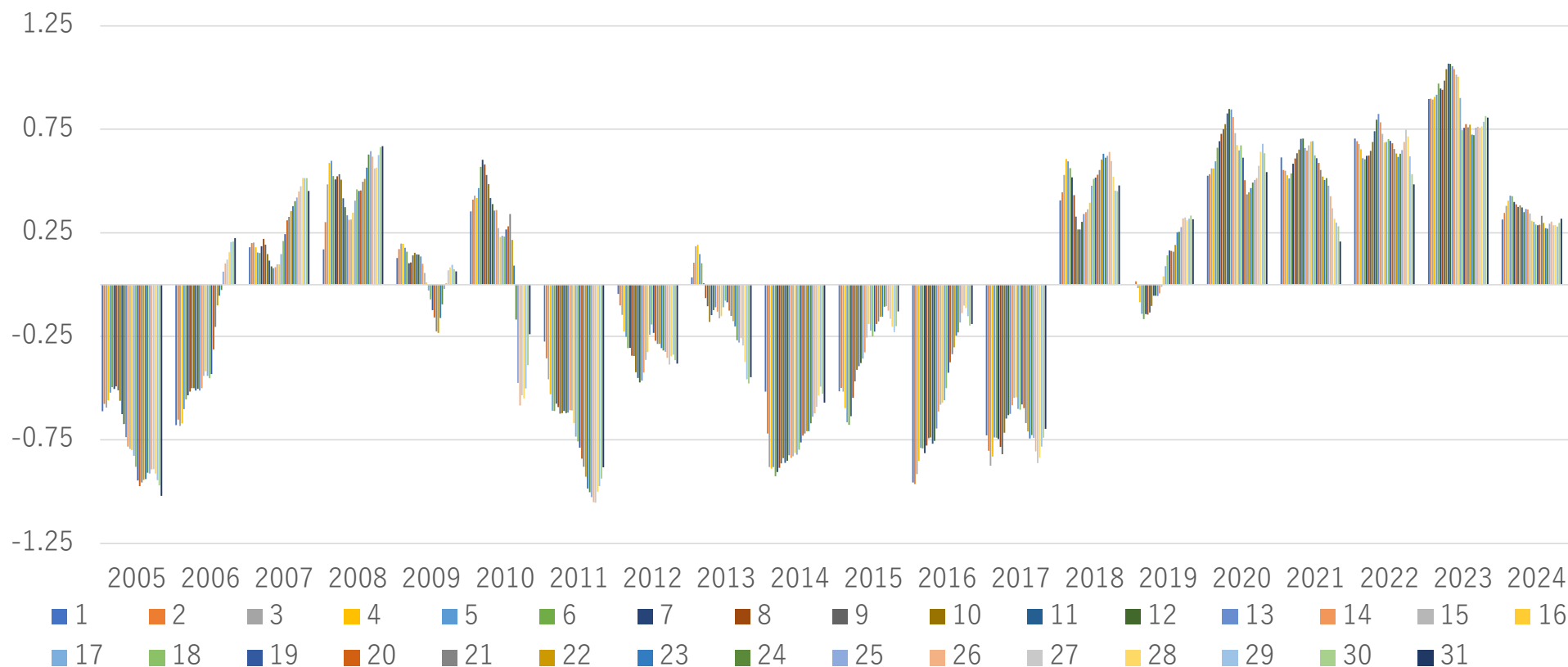
○漁獲量（資源量）が少ないと初漁日が遅くなる傾向がある

3. 漁獲量低迷要因の考察

(2) 海水温① (男鹿以南)

男鹿以南水深10m
2005～2024年の平均との差

緯度：北緯39.1-39.9
経度：東経139.5-140.1
水深：10m
F R A - R O M S II による範囲内平均水温

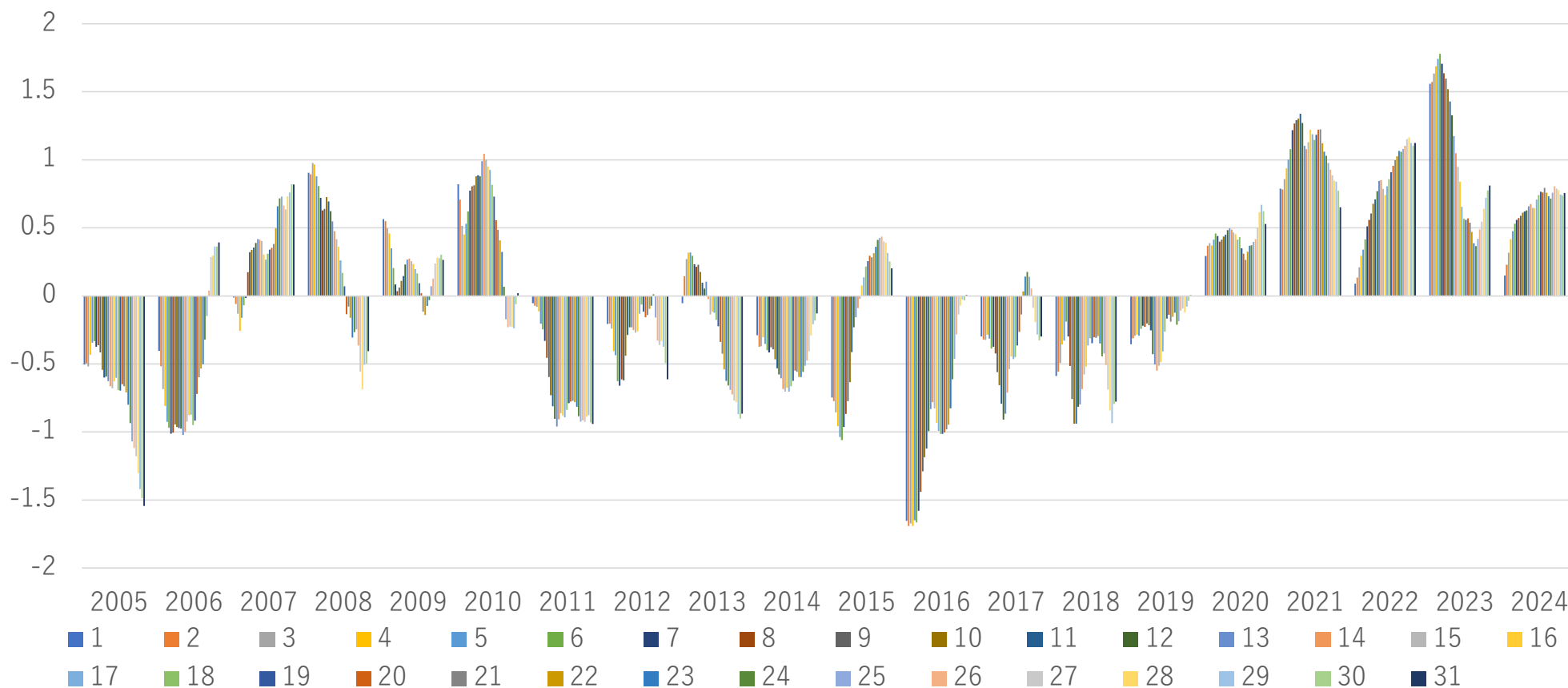


○2020年以降の12月水温は期間中の平均よりも常に高い

3. 漁獲量低迷要因の考察

(2) 海水温② (男鹿以北)

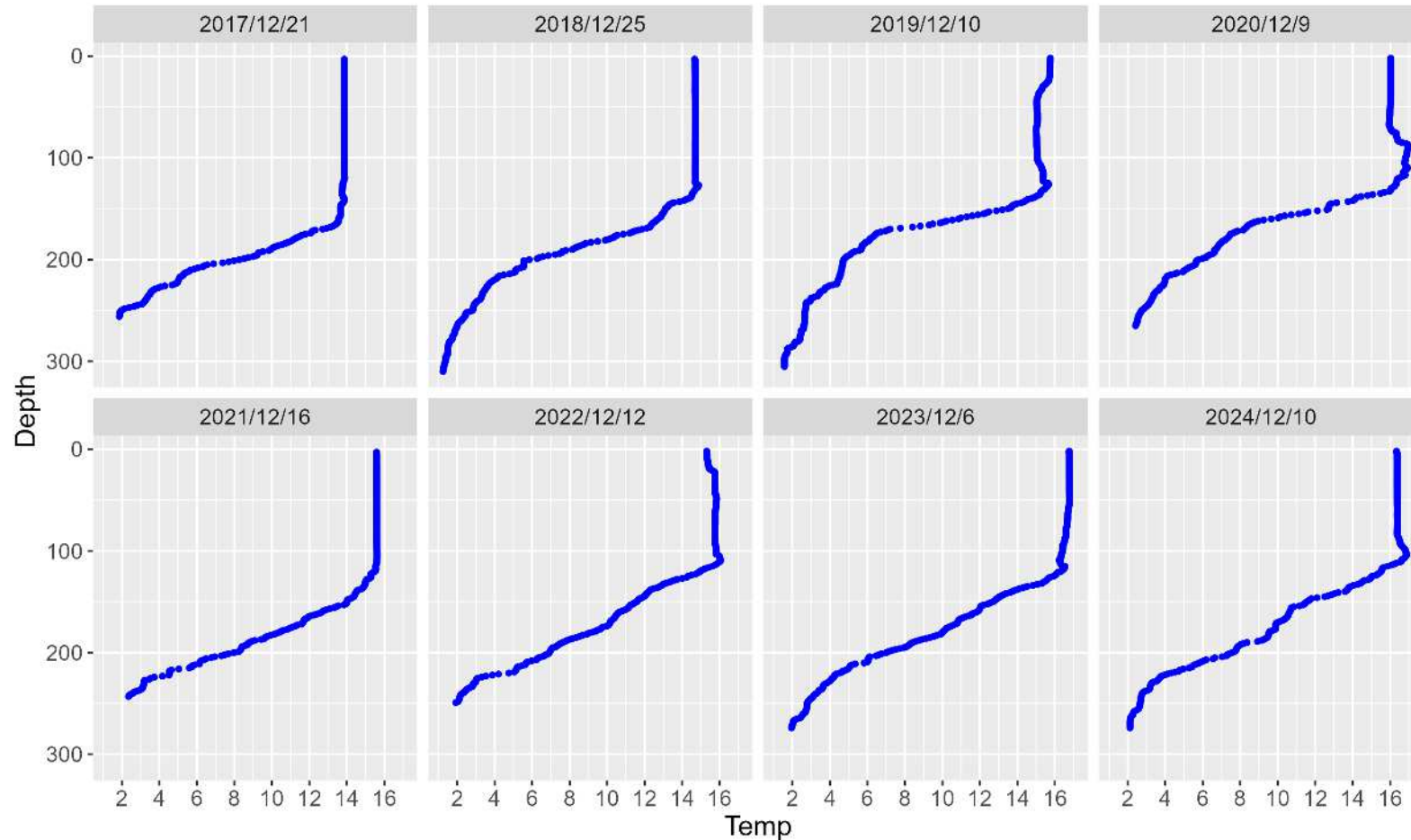
緯度：北緯39.9-40.5
 経度：東経139.5-140.1
 水深：10m
 F R A - R O M S II による範囲内平均水温
 男鹿以北水深10m
 2005～2024年の平均との差



○2020年以降の12月水温は期間中の平均よりも常に高い

3. 漁獲量低迷要因の考察 (3) 海水温 (沖合)

12月の同時期における千秋丸CTD鉛直水温



- 冬場は表面が冷やされ鉛直混合が起こるが、近年は12月に表層が冷えずに混合の範囲が狭くなっている。
- 2023年、2024年は水深100mまで16°C以上であった。表層が冬場に冷えにくい状況。

4. 前回からの進捗状況（アブラツノザメ）



- ハタハタと同時に獲れた個体で胃内容物を調査したがハタハタは見られていない。
- これまでの調査でハタハタが出てきたことはあるが積極的に食しているかは不明
- 稚魚についてはこれからの板びき網調査で実施

5. 今後の予定

(1) 調査について

現在の調査内容

○仔稚魚調査

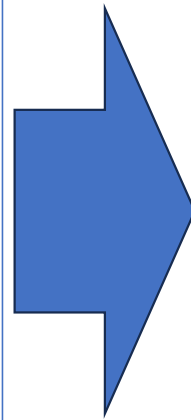
→板びき網による調査（2～6月）

○資源評価

→かけ廻しによる漁獲物を使った体長、重量等の調査（9～12月）

○卵塊・藻場調査

→産卵量と産卵環境を確認（1～2月）



今後の拡充

○仔稚魚調査

→より沿岸の調査を実施（ソリネット）

○仔稚魚期の生育状況調査

→耳石の日周輪を使った生育比較

○食害状況の調査

→アブラツノザメ等の胃内容物継続調査

○資源評価手法の再検討

→現在のVPA法による資源推定以外の手法を検討

5. 今後の予定

(2) 資源管理についての提案

○大型魚の選択的な漁獲の見直し

- 次年以降の資源となる小型魚（1歳魚）を保護するため、目合の拡大等で大型魚（2～4歳魚）を選択的に獲るようにしてきたが、小型魚がほとんどいないことから、親となる大型魚の資源も残していかなければならない。
- 従来の小型魚だけ保護するといった方法の見直しが必要。

○ハタハタの仔稚魚を守る

- ハタハタを食べる魚食性の魚が増えているとの意見がある
- アブラツメザメなど魚食性の魚の利用を促進してハタハタ資源を守ることが必要。